

財務の概要　－2025 年度決算について－

1. 概要

2025 年度は、新病院棟建設や持続的な投資を可能とする財務基盤の強化を目指し、期初予算では 2,168 百万円の基本金組入前当年度収支差額を計上しましたが、その後、学校法人会計基準の改正及び建設資金の借入れの早期化に伴って補正予算を編成し、同収支差額を 655 百万円に修正しました。事業環境としては、不安定な国際情勢や円安進行などによる物価高騰、医療収入の減少など複数のマイナス要因が重なりましたが、業務運営の効率化や経費コントロールを一層強化した結果、経常収支差額は前年比 383 百万円減の 2,254 百万円を確保しました。一方、基本金組入前当年度収支差額は、特別支出に多額の費用を計上した影響により、前年度比 5,949 百万円減の▲3,219 百万円となりました。

2. 事業活動収支計算書（表 1・2 及びグラフ）

＜教育活動収支＞

① 教育活動収入

教育活動収入は前年度比 870 百万円の減収の 60,972 百万円となりました。

学生納付金は、薬学部の学生数減などの影響で前年度比 37 百万円減収となりました。また、教育活動収入の大半を占める医療収入は 1,672 百万円減の 47,549 百万円で、これは西宮本院で病床稼働率が概ね維持できたものの、外来の患者数減少・単価下落により前年度比 1,076 百万円減、加えて事業譲渡予定のささやま医療センター・老健施設で地域包括病棟の休床、外来患者・通所利用の減少などにより同 682 百万円減となったことによるものです。

一方、寄付金は大口の株式現物寄付により前年度比 427 百万円増の 960 百万円となりました。また、経常費等補助金は、国の修学支援制度の拡大、大学改革推進や病床数適正化関連の補助金の交付により前年度比 353 百万円増加し 2,755 百万円となりました。

② 教育活動支出

教育活動支出は前年度比 593 百万円の減少の 58,907 百万円となりました。

人件費は、職員人件費が増加したものの教員人件費や退職給付関連の費用が減少したため、前年度比 79 百万円減の 23,746 百万円となりました。

教育研究経費は、損害保険料、減価償却額などが減少したものの、奨学費、雑費、業務委託費などが増加したため、前年度比 173 百万円増の 5,079 百万円となりました。

また、医療経費は、物価高騰の影響による医療用消耗品費、医療材料費、業務委託費などの増加したものの減価償却費、薬品費、修繕費等の減少によって、前年度比 609 百万円減の 28,756 百万円となりました。

この結果、医療収支差額は前年度比 1,063 百万円悪化し 18,793 百万円となりました。

<教育活動外収支>

教育活動外収支は、有価証券の積み増しや運用利回り向上により受取利息・配当金収入が増加したものの、新病院棟建設に伴う資金調達により借入金利息が増加したため、前年度比 105 百万円減の 188 百万円となりました。

<特別収支>

施設設備に係る補助金などが増加したものの、現物寄付株式の強制評価減、学校法人会計基準改正に伴う賞与引当金特別繰入及び篠山キャンパスの経営移譲に伴う事業譲渡損失引当金を計上したことにより、特別収支は前年度比 5,566 百万円減の▲5,473 百万円となりました。

3. 資金収支計算書（表 3）

資金収支については、新病院棟建設に伴う借入金収入が前年度比 10,697 百万円増加したものの、建設仮勘定支出が前年度比 18,800 百万円増加したため、翌年度繰越支払資金（現金預金）は、2024 年度末 14,686 百万円より 2,062 百万円減少し、12,624 百万円となりました。

4. 貸借対照表（表 4）

2025 年度末の純資産（資産－負債）は、大幅な赤字決算を背景に前年度末比 3,219 百万円減の 89,183 百万円となりました。

資産の部は、第 3 号基本金引当特定資産(現物寄付株式)の評価減や建物・機器等の減価償却が進んだ一方で、新病院棟建設に伴う建設仮勘定の増加によって、前年度比 20,671 百万円増加し 148,638 百万円となりました。

負債の部は、新病院棟建設に伴う借入金増加により、前年度比 23,890 百万円増の 59,455 百万円となりました。

なお、2025 年度末の総保有資金残高は、前年度比 1,588 百万円減の 46,111 百万円となりました。

5. 主要財務比率の推移（表 5）

表 5 にて財務比率の推移を表しています。比率の意味、主な留意点等を表の次頁に記載しています。

6. キャッシュ・フローの推移（表 6）

「教育研究活動」「施設等整備活動」「財務活動」の活動区分ごとのキャッシュ・フローの推移を表しています。それぞれのキャッシュ・フロー計算書は、他の会計基準とほぼ同様の区分等の手法を採用して作成しています。

以上